

南牧村花卉生産組合花情報(平成29年7月)

「なんもくの花」

群馬県南西部の山間の地「南牧村」では、平均年齢70歳の18名が50種類を超える宿根草や花木などの切り花を生産し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。

(写真は7月出荷の主力品種“リシマキア・エリザベス”です。)

『リシマキア・エリザベス』

平成23年に「なんもくの花」に仲間入りした“リシマキア・エリザベス”は、年々生産が増え、今年は10名ほどが栽培、わずか5年で主力品種に成長しました。白く小さい清楚な花が穂状に付き、花持ちが良いのが特徴です。7月上旬から8月上旬に出荷される“リシマキア・エリザベス”にご期待ください。

【可愛い小花】→



『マウンテンミント』

柔らかなパステルグリーンの葉と爽やかな香り。生産量は多くありませんが、この“マウンテンミント”はよくご注文をいただく隠れた人気品目です。南牧の山の涼やかな風を背負って7月に出荷される“マウンテンミント”をよろしくお願ひします。【いわゆるミントより優しい香り】→



『現地検討会・栽培説明会開催』

毎年恒例の現地検討会を、今年も5月と6月に開催しました。6月の現地検討会は「なんもくの花」の新たな担い手を探すために栽培説明会を兼ねて開催、7名もの方が村外から参加してくれました。南牧での花き栽培に興味のある方、一度参加してみませんか？(次回2月開催予定)

【現地検討会(栽培説明会)】→

